

## 千葉県県土整備部 ICT活用工事（河川浚渫）試行要領

### 1 目的

この要領は、建設工事の生産性を向上し魅力ある建設現場の実現を図ることを目的に、国土交通省が推進する i-Construction の3つの「トップランナー施策」のひとつである「ICTの全面的な活用」のうち「ICT河川浚渫」について、千葉県発注工事において普及・促進を図るため、ICT河川浚渫の試行に当たり必要な事項を定めたものである。

### 2 実施方針

ICT河川浚渫は「施工者希望型」として実施することとし、受注者が施工を希望する場合、契約後、施工計画書の提出までに発注機関と協議を行い、協議が整った場合に実施する。

なお、ICT河川浚渫の施工に伴い生じた経費については、発注機関がICT活用工事（河川浚渫）積算要領に基づき積算した金額を設計変更の対象とする。

ICT河川浚渫は、工事成績評定において、「創意工夫」の加点対象とする。

入札方式は、指名競争入札または一般競争入札（総合評価方式）のいずれかとするが、総合評価の技術提案において、下記4に掲げるICT技術の提案があった場合は、評価の対象外とする。

### 3 対象工事

原則として浚渫数量1,000m<sup>3</sup>以上の浚渫工（バックホウ浚渫船）を対象とし、発注者は特記仕様書に当該工事がICT活用工事の対象となることを記載する。

### 4 定義

ICT河川浚渫とは、以下に掲げる①から⑤の全ての段階においてICT施工技術を活用する工事とする。

#### ① 3次元起工測量

起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1)～2)から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。

1) 音響測深機器を用いた起工測量

2) その他の3次元計測技術を用いた起工測量（※）

（※）従来の断面管理においてTSを用いて測定し、計測点同士をTINで結合する方法で断面間を3次元的に補完することを含む。

② 3次元設計データ作成

前記①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。

③ ICT建設機械による施工

前記②で作成した3次元設計データを用い、下記1)に示すICT建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。

1) 3次元MCまたは3次元MGバックホウ

※MC:「マシンコントロール」の略称、MG:「マシンガイダンス」の略称

④ 3次元出来形管理

前記③による工事の施工管理において、下記1)～3)に示す方法から選択(複数以上可)して出来形管理を実施する。

1) 音響測深機器を用いた出来形管理

2) 施工履歴データを用いた出来形管理

3) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

⑤ 3次元データの納品

前記④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

5 要領、基準類

ICT河川浚渫の施工に伴い必要となる調査・測量、設計、施工、検査についての要領、基準類は、国土交通省が定めた別表の基準類を準用することとする。

6 その他

この要領に定めのない事項については、発注者、受注者双方が協議して定める。

附 則

この要領は、平成31年4月15日から施行する。

別表

調査 測量 設計	1	電子納品要領（工事及び設計）※1
	2	3次元設計データ交換標準（同運用ガイドラインを含む）※2、3
施工	3	土木工事数量算出要領（案）
	4	土木工事施工管理基準（案）（出来形管理基準及び規格値）
	5	音響測深機器を用いた出来形管理要領（河川浚渫工事編）（案） ※1、3
	6	施工履歴データを用いた出来形管理要領（河川浚渫工事編）（案） ※1、3
検査	7	音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案）※1、3
	8	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫工事編）（案）※1、3
積算	9	I C T活用工事（河川浚渫）積算要領

※1 「各地方整備局」及び「地方整備局」を「千葉県」に読み替える。

※2 「国土交通省直轄事業」を「千葉県が発注する工事」に読み替える。

※3 「国土交通省」及び「国土交通省各地方整備局」を「千葉県」に読み替える。